

●編集顧問／牧野永城、菅原克彦、阿部令彦、出月康夫、武藤輝一、田島知郎、萩原 優、北島政樹、炭山嘉伸

●編集委員／跡見 裕、畠山勝義、桑野博行、宮崎 勝、島津元秀、渡邊聡明

●編集同人／佐野圭司、近藤芳夫、阪口周吉、鈴木章夫、秋山 洋、塩谷信幸、諏訪邦夫、岡崎春雄、松元輝夫、折田薫三、細田泰之

外科医療が大変なことになりそうだ。いや、すでに危機的状況になっている。厚生労働省のデータベースによると、外科医は1996年で24,919人、2006年では21,574人と実に13.4%の減少であった。外科志望者の推移をみると、臨床研修制度が導入される直前の2005年に行なった日本外科学会の調査では1980年代後半をピークとして、2000年以降ではピーク時の80%まで減少していた。全国医学部長病院長会議の調査によると、大学帰学医師の診療科別増減では外科志望者は臨床研修制度発足前の2/3と著しく減少している。つまり、外科志望者は減り続けていたのが、臨床研修制度でそれが一層加速したのである。

一方で、手術を必要とする悪性腫瘍患者は増加の一途をたどり、その多くが消化器・一般外科の治療対象となる。さらに、病院の統廃合などの集約化によって1病院あたりの手術件数は増えつつある。外科医が減少し、手術件数が増加すれば外科医の労働量は必然的に増えることになる。

外科志望者減少の理由として(1)労働時間が長い、(2)時間外勤務が多い、(3)医療事故のリスクが高い、(4)訴訟のリスクが高い、(5)賃金が少ないことが挙げられているが、いずれも外科医が実感していることであろう。長時間労働を強いる原因として、外科医が多業務をこなしていることもある。手術および術前後の管理という外科医の本来の仕事以外に、化学療法、緩和医療、救急医療、麻酔等が挙げられており、医師のみならず看護師や他職種も含めた医療体制が再構築されなければ解決されない問題である。労働時間・内容に見合った賃金を得ることも重要である。わが国の医療保険制度では医師などの医療従事者の技術料が別途に定められておらず、診療報酬のなかに包括されていることや、医療技術や経験がまったく評価されていないことは早急に是正すべき課題である。その結果としてはじめて技術料が適切な賃金に反映される可能性が出てくるのである。

どれくらいの外科医が必要であるか、どれくらいの外科専門医がいればニーズを満たすことができるか。これらは外科専門医の質の問題ばかりでなく、地域性の問題を含めたわが国の実情をよく検討しないと適正な数は出てこない。ただし、外科医の減少は地方都市で著しく、癌患者でも手術までの待機期間が長くなりつつあるのが現状である。外科志望者の減少は外科医療の崩壊へと通じる道である。

(跡見 裕)

臨床外科 (第64巻第7号)

発行 株式会社 医学書院  
代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23  
社内案内 (03) 3817-5600  
販売部直通 (03) 3817-5659・5660  
振替口座 00170-9-96693 番

2009年7月20日発行 (毎月1回20日発行)

定価 2,730 円 (本体 2,600 円 + 税 5%)

2009 年年ぎめ予約購読料 40,160 円  
MedicalFinder パーソナルオプション付 52,200 円  
増刊号を含む 13 冊、税込、送料小社負担

本誌編集室直通 (03) 3817-5708  
ファクシミリ (03) 3815-7802  
E-mail: ringe@igaku-shoin.co.jp

担当 田村・阿部・安部  
印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005  
広告申込所 日本医学広告社 電話 (03) 5226-2791

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2009, Printed in Japan
- 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- JICLS < (株)日本著作出版権管理システム委託出版物 >  
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。本誌を複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(03-3817-5670)の許諾を得てください。
- 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- 「臨床外科」ホームページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/ringe/> です。